

24/3/4 特別史跡名古屋城跡全体整備検討会議
石垣・埋蔵文化財部会＋建造物部会
名古屋市民オンブズマンによるメモ

10:00

岡田保存整備室長：はじめる

上田所長は議会对応で欠席 かわりにあいさつ文を読む

「表二の門発掘について

史資料調査を進めてきた

学術的検討を深めたい

同時開催

引き続きご指導を」

出席者紹介

・北垣、赤羽、梶原

・小濱、溝口、野々垣、麓

・浅岡、山内

・教育委員会、名古屋城総合事務所

写真、ビデオ撮影はこれまで

今回同時開催 私が進行する

議事Ⅰ：表二の門

二階に区切って

大村：調査結果

円礫：庄内川の中流域 天和期の栗石？

積みなおしの際に搬入された？

切石の下にも石を確認 下端がわからない

何らかの遺構

10:29

岡田：意見は 石垣部会の先生

北垣：4 ページ

図 22.23

同レベルの居石をつかっている

当初期に近い理解？

大村：後程検討説明

基本的には石材 当初からのものかと考えている

北垣：ここ、

大村：

赤羽：

大村：

赤羽：金城温故録

昔は登れた 上ったり下りたりした
天端の幅が広い

大村：表二の門

梶原：

大村：

梶原：当初の背面構造とは築城時？

大村：そう

赤羽：雁木が撤去された 1940年ごろ写真にない
なぜ？

大村：絵図調査

大正8年ごろ 雁木描かれなくなる
文字での確認されていない
理由は不明

北垣：円礫 庄内川中域から採取
天和期

梶原：2頁 当初の礫とは違う？

大村：根固め 円礫と土が混じっている

梶原：

大村：

梶原：

岡田：建造物部会は

溝口：

大村：実際の姿は疑わしい

溝口：平場がない？

麓：いくつか

・検出された雁木

検出された石材すべてが江戸中期と言い切れるか

同じ大きさの矢穴がある？

違うなら時期が分かるもの

すべての石材を取り換えることは考えられない

大村：小さい矢穴の切り石確認

そのほか 7-8センチ

すべてが江戸中期とは考えていない

当初の雁木使われている

高さ、つらがそろっている

麓：積みなおすと、石材が古い新しいは別

古い石材で積みなおしを考えて

背後の石 円礫

すべてを新しくするわけではない

積みなおし工事したときに、栗石はよけて、

古い栗石に新しい栗石を混ぜる

天和期の円礫と必ずしも言えない

2 ページイ 円礫

それと違うのか、
新たに採取したとは言い切らない方がいい
控え柱の根固め

当初も控え柱は雁木の石材を据えるため埋めている
修理においては、雁木の修理より、控え柱のほうが頻繁
雁木の中に控え柱が入る感じ

大村：他城 雁木の上に乗るようなもの

麓：それでは控え柱にならない
雁木があって
建築学的には十分あり得る

大村：当初から控え柱、根固めがあった
現状は新しい根固め

麓：現状の柱位置 当初から踏襲していることも考えて
雁木を据える円礫面
そうとは限らない
当初から深く控え柱を埋める
高麗門控え柱も同じ
よく腐る 柱の位置を変えるわけにはいかない
濃尾地震後の古写真
「建て替えられた」本当？修理もありえる？
狭間の位置だけ変わったのでは？修理の可能性も
建て替えと修理を
・100%なくして新しいものを作った
・いったん解体 古い石材、栗 再利用して積みなおし→修理
搦め手馬出は修理
用語は厳密に

大村：考えが至っていなかった

麓：雁木が当初からあったかなかったか
当初は土塁→雁木→土塁 の可能性も
当初から雁木 根拠は
復元するにも根拠が乏しいよう

小濱：雁木 控え柱があるものは見たことがない
麓先生 控え柱の足
雁木状の控え柱

大村：来年度以降検討

小濱：掘っ立て柱ではないということ？

野々垣：金城温故録の記述内容
厳密を期す 資料自体
濃尾大震災前の写真の狭間の違い

大村：東側 西は狭間がどこか確認しにくい

11:11

岡田：説明続き

大村：現状の土堀 約 20 センチ
他 どれも控え柱がついた土堀
姫路城 控え柱がない築地堀
石垣の積みなおし

11:25

岡田：トイレ休憩必要なら取る？
このまま進めてよいか

小濱：掘っ立て柱も可能
表二の門 雁木の時は不明
不明門はこう 表二の門はどうだったのか

大村：表二の門は確認できていない
不明門と大きく変わることはないのではないか

野々垣：控え柱の件
雁木 図 24 下から立ち上がっている

大村：切り石の評価が定まっていない

麓：6 ページ 刻印と矢穴

矢穴を2倍に強調

名古屋城 編年を考えると、当初の矢穴はどの大きさ

寛文くらいならこの大きさ

天和だこの大きさ

時期で分類して色分けしてくれるとわかりやすい

これでは見にくい

積みなおしがあるかないか知りたい

どの高さからかも知りたい

金城温故録 不明門控え柱 雁木の外側は本柱より長い

日本中見たことがない あり得ないと思う

土塁の上にある控え柱 取り替えた控え柱

土堀と控え柱の位置関係 見慣れた位置、何の不自然さもない

溝口：資料提示して、今後検討という理解か

不明門もそう この情報が表二の門で適切か

ひょっとしてそうだったかもしれない

コの字型 柱建てられない こういう形はとりえない

表二の門該当するかどうか

特殊なのあったのかもしれない

ものとして成立しない

発掘して控え柱 土堀の延長上

いたずらに特別な事例を検討するよりは、遺構の状況から考えられないか

岡田：石垣部会は

赤羽：5 ページ 不明門の控え柱の在り方

他城 控え柱はどういう形？

大村：ばらつきがある

江戸城清水門？ 雁木の上に据えついている

大坂城大手門・桜門？ 雁木の隙間に入っていく

丸亀城も

両方の可能性がある

赤羽：不明門のような？

大村：上部・中部に控え柱がある

北垣：石垣

方向を確認すべき

6 ページ立面図 当初期と理解していい

中央あたりが通路 門のところ

内側と外側

岩崎山の花崗岩

石材を最大限活用しているのが城郭石垣

雁木 長い石 寸法がそれぞれ違う

延べ石 言葉として使っては

和歌山城 当初期遺構？自然石 加工しない

性格が異なる

図7

村木：発掘調査とその後の調査

丁寧なご意見ありがとうございます

分野が違う先生 勉強になった

調査成果 正確に出来ていない

整備

雁木は検討する必要ある

雁木を本来に戻すように

整備の方向 提示させていただく

調査はまた示す

岡田：終了

ありがとう

あらたなステップに進めたい

11:53